

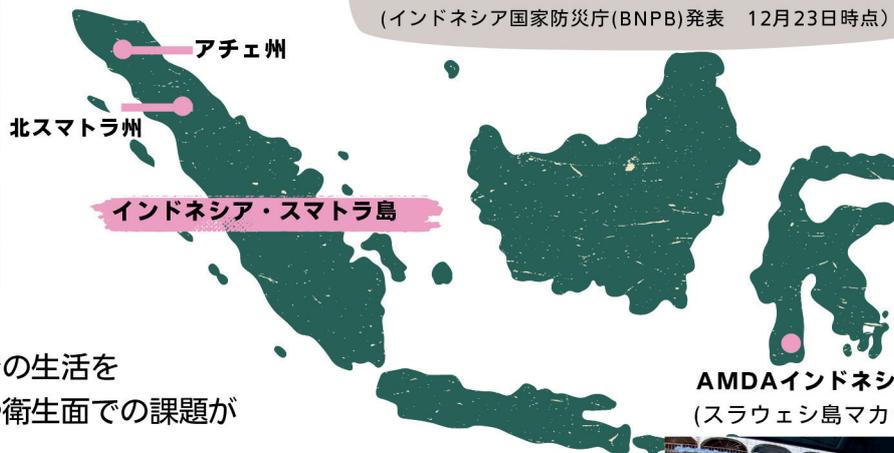
号外

インドネシア豪雨 被災者緊急支援活動報告



2025年11月下旬からの豪雨により、インドネシア・スマトラ島北部を中心に洪水や土砂崩れが発生。

住宅や農地、道路、橋などが被害を受け、一部地域では医療施設も浸水するなど、地域の医療提供体制に影響が出ました。



被災地では、

多くの住民が、避難所や親族宅などでの生活を余儀なくされ、安全な飲料水の確保や衛生面での課題が生じていました。

皮膚疾患、発熱、下痢などの症状を有する住民が確認される一方、医療機関の機能停止により受診が困難な地域も見られました。

AMDAは、AMDAインターナショナル、インドネシア・ムスリム大学 (UMI) AMDAインドネシア支部と協力し、12月4日から特に被害の大きい、スマトラ島・アチェ州、北スマトラ州で緊急支援活動を実施。

12月7日には日本からの派遣を開始し、計3名の看護師を派遣しました。



現地調査に基づき、支援場所を決定しました

今回の支援場所のひとつ、インドネシア・スマトラ島アチェ州アチェタミアン県とは

- 県内の人口は約30万人ですが避難者数は25万2600人にのぼり、今回の災害による被害は、インドネシア国内で最大規模となっています。(12月11日 インドネシア国家防災庁(BNPB)発表)
- 今回の洪水での被害が大きく、インフラが壊滅しており宿泊できる施設もないため、スマトラ島の最大都市・北スマトラ州メダンに宿泊した派遣チームは毎日片道3時間前後、洪水被害が確認される道のりを車で移動し、支援活動に向かいました。
- インドネシア・ムスリム大学 (UMI)、AMDAインドネシア支部などの協力により、日本チームとして早い段階でアチェ州アチェタミアン県での支援活動が実現しました。



支援活動では以下のことを実施しました

- ・医療施設が機能していない地域での簡易診療の実施
- ・地元医療機関への医薬品の提供
- ・被災地域に住む住民への飲料水、衛生用品、生活必需品などの配布
- ・被災者への心のケアプログラムの実施



被災者を対象にした心のケアプログラム（トラウマケア）の様子

被災者の中には、洪水の記憶を思い出し、涙を流される方もいましたが、最終的には参加された皆さんが笑顔でセラピーを終えました。



地元の医療機関の機能が復旧したことを受け、12月24日にAMDA派遣チームは帰国しました。被災地域では、道路や公共施設の復旧が段階的に進められ、復興の兆しがみえてきています。

AMDAは、今後もインドネシア支部と連絡を取りながら被災地の状況を注視し、必要に応じて被災者の心のケアを含む支援活動の継続を検討していく予定です。



被災地での活動報告動画を配信中